

子曰く、憤せずんば啓せず。悻せずんば発せず。一隅を挙ぐるに、三隅を以て反らざれば、則ち復らざるなり。

【大体の意味内容】先生はおっしゃった。「悻憤しなければ啓発できない。つまり、怒りに震え血も噴き出るときのような強い 志 を発動し、伝えたい思いが言葉にならず、齒ぎしりしながら頭をかきむしるほど、もだえ苦しまなければ、だれも到達できなかった未知の世界を啓き見ることとはできないし、自分の生命の輝きが発揮されることもない。

この世界という箱の一つの片隅を与えられても、それほどまで奮励努力することによって残り三隅(二つの隅)の新境地へ到達していかなければ、自分に与えられた世界を一巡りしたとは言えないのである。」

「自分がいま生きているということ、全身がひりひりするほどに実感する機会が少なくなってきたるように思います。体中から汗が噴き出し、背中から湯気がもつもつと立つような思いで何らかの仕事に取り組んだり準備したり勉強したり練習したりするようにな、現実味が感じられなくなっています。バーチャルな映像や動画、情報の洪水に飲み込まれて、自分の心身が主体的に生きられなくなってきました。自分の人生は自分で生きますし。便利な道具に支配され、権力者やマスコミに洗脳されワンパターンの考え方にはめ込まれるのではなく、いろんなことに疑問を持ち、自分で調べたり考えたりする努力をしましょう。何かスポーツや芸術などの習い事や、受験などの、自分にとって大きなイベントがあることに、私たちは「一応の」努力をしますが、それをもっと命がけで、必死に努力すれば、予定していた以上の何かを得られることがあります。今自分がいる精神状態は、まだ世界の片隅の狭い範囲しか知らない精神状態なのです。しかも、何かとんでもないものに支配されているかもしれないし、誰かにとって都合のいい物の見方考え方行動の仕方を知らず知らずのうちに仕込まれた奴隷・家畜かもしれないのです。いきなりそう言われても、心当たりも見当もつかないでしょうが、まずは今自分が取り組んでいることを真剣にやり切ってみましょう。できるかできないかは関係ない。とことん努力することで、楽しさも味分えるし、思わぬことを神様が見せてくれたり教えてくれたり、出会わせてくれたりします。